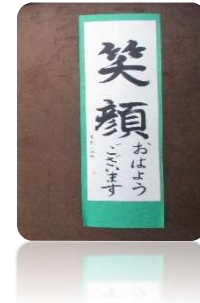




特別養護老人ホーム明合乃里
介護士 川畑 靖



私は小さい頃から、おばあちゃん子でした。中学校の時に祖母が脳梗塞で倒れ、その後認知症になりました。当時認知症という病気が分からない私は、徐々に進行している祖母を見るのが嫌で、信じる事が出来ませんでした。祖母が徐々に名前も忘れていく中で、最後まで他の人を見ては、「しずか？」と私の名前を言っていました。その事は今でも忘れる事ができません。また、両親が実家で祖母の介護をしている姿をみて、少しでも何か手伝える事はないか考えていました。就職を決めていなかった私は「してみよーかな？」と軽い気持ちで、高校卒業後、あけあい会に入社しました。

当時は「介護とは何か」と全く分からない状態でした。何も分からない私を一から先輩方に指導して頂き、自分の出来なさに、すごく悔しく、くじけそうになる事もありましたが、友達や同僚に支えられて今に至っています。覚える事に必死でしたが、1・2年経つ頃には仕事に慣れ、利用者様に「ありがとう」と言われる事、名前を覚えて頂いている事がすごく嬉しく思いました。また、先輩方の仕事を見て学ぶ、研修等で、仕事1つ1つに意味がある事を知り、もっと介護を知りたいと思い、やりがいを感じる事ができました。

今では6年目になります。分からない事も沢山あると思いますが、現在、プリセプター(新人育成指導)として、つかせてもらっています。自分の仕事を振り返り、新人職員1人1人のペースで仕事に慣れてもらい、介護のやりがいを見つけてもらえたら良いなと思っています。まだまだ、未熟な私ですが、利用者様1人1人の生活を預らせて頂いていると言う事を忘れず頑張っていきたいと思っています。